



## 3.すべての人に健康と福祉を

### 女性のからだ支援～Breezeプロジェクト～生理用品の無償配付

慶應義塾では、女性のからだ支援「Breezeプロジェクト」の一環として、経済状況による生活不安を抱える女子学生を対象に、生理用品の無償配付を実施しています。2024年度は、4月、7月、10月、1月の4回募集を行いました。また、生理用ナプキン無料提供ディスペンサーOiTr (<https://www.diversity.keio.ac.jp/breeze/breeze.html>)をすべてのキャンパスに導入しています。女子学生の生理に伴う心やからだの負担軽減とジェンダーギャップの是正に寄与し、快適な大学生活を送るための一助となることを目指しています。並行して専門医によるからだセミナーの開催や保健管理センターに「女性のからだ・男性のからだ相談室」を開設しています。

### 小泉信三記念講座\*「私たちが目指す近未来の医療・介護・ヘルスケアとは」開催

2024年9月13日、中村雅也医学部教授による2024年度小泉信三記念講座「私たちが目指す近未来の医療・介護・ヘルスケアとは」が、信濃町キャンパスにて開催されました。講演では、アカデミアと企業のサイエンスナレッジ・データ基盤を活用して展開される異分野融合研究や、そこで創出される様々なセンシング技術やAI解析によるアルゴリズムなどが紹介されました。医療・介護・ヘルスケアをシームレスに結び、治療後の悩みを抱える個人・家族が必要な時に適切なおところに繋がり、安心と生きがいを持って自分らしく健康で豊かに過ごせるヘルスコモンズ共生社会の実現を目指したいという内容で、参加者は熱心に聴講し、活発な質疑応答が行われました。

\* 小泉信三記念講座は、故小泉信三博士の人と学問を記念して設けられた小泉基金により、全学的な総合講座として1968年より年に数回実施されています。この講座は広く学外の方にも聴講料無料で公開されており、原則として特に予約なく自由に参加いただけます。



講演する中村教授

### 公開講座「住友生命が取り組む『ウェルビーイング(=よりよく生きる)』とは」開催

2024年5月24日、システムデザインマネジメント研究科(SDM)は、公開講座「住友生命が取り組む『ウェルビーイング(=よりよく生きる)』とは」を開催しました。第1回「ウェルビーイングアワード」([https://www.asahi.com/ads/wellbeing\\_awards/](https://www.asahi.com/ads/wellbeing_awards/))でモノ・サービス部門グランプリを受賞した住友生命保険相互会社 高田幸徳取締役代表執行役社長と同アワードで審査委員長を務めた前野隆司SDM教授(ウェルビーイング学会代表理事)の対談、SDM聴講生との議論などのプログラムを軸に、住友生命が健康増進型保険「住友生命[Vitality]」を核として経営の真ん中に「ウェルビーイング」を据える意味と、「ウェルビーイング(=よりよく生きる)」に関する理解促進を図りました。

### 市民公開講座「がんの基礎から現在のがん治療、そして最新がん治療法の紹介」開催

2025年1月19日～1月26日、薬学部は、第3回がんプロフェッショナル研修会市民公開講座「がんの基礎から現在のがん治療、そして最新がん治療法の紹介」をオンデマンド配信にて開催しました。がんは日本人の2人に1人が罹患する国民病であり、2000年代から分子レベルでの研究が進み、様々な新薬が開発されています。特に、免疫チェックポイント阻害薬に代表されるがん免疫治療法は、手術・化学療法・放射線治療に続く第4のがん治療として大きな期待を集めています。講演では、免疫チェックポイント阻害薬を中心とした次世代がん治療法の現状と今後の展望について、最新の研究報告を交えて解説しました。

## 薬学部生考案の健康応援メニューを港区役所食堂にて提供

薬学部薬科学科1年生の授業「早期体験学習・アントレプレナーシップ導入講義」で考案したメニューが、2024年9月17日～9月20日と9月24日～9月27日、一般の方も利用可能な港区役所職員食堂「レストラン・ポート」(<https://www.city.minato.tokyo.jp/gomigenryou/tabekiri/0062minatokuyakushoshokuinnshokudourestaurantpo-to.html>)にて提供されました。学生たちは、港区役所職員の健康診断データの分析、ペルソナ設定、文献調査、専門家へのヒアリングからメニュー開発までを実施し、メニュー内容の監修は、港区健康推進課の管理栄養士の方にアドバイスをいただきました。野菜、きのこ、海藻類をふんだんに使用し、健康的かつ満足感を得られるよう工夫を凝らした、糖尿病対策メニュー「血糖値ガパオ」とメタボ対策メニュー「食物繊維たっぷりがっつり定食」の2種類が提供されました。



糖尿病対策メニュー「血糖値ガパオ」

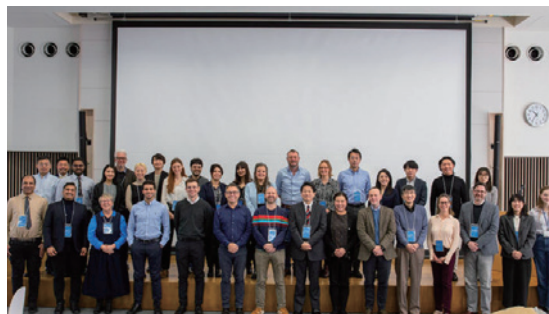


メタボ対策メニュー「食物繊維たっぷりがっつり定食」

## RENKEI<sup>®</sup>ヘルス・ワークショップ主催

2024年12月1日～12月3日、鶴岡タウンキャンパスにて、RENKEIヘルス・ワークショップを主催し、日英両国のRENKEI加盟大学から40名以上が参加しました。3日間にわたるワークショップでは、健康寿命を延ばし、健康社会を実現する上での課題解決に向けて、食事・生活習慣・テクノロジー・地域医療について、活発に議論されました。慶應義塾からは、土屋大洋常任理事、荒川和晴政策・メディア研究科教授(先端生命科学研究所所長)、新井康通看護医療学部教授(百寿総合研究センター所長)ら9名の研究者が参加し、先端生命科学研究所の研究成果から誕生した大学発ベンチャーの活動や100歳以上の方々の長寿の秘訣を医学的に明らかにする研究などが紹介されました。

※ 日本と英国の大学が、双方のナレッジの共有や国際共同研究を円滑に創出するためのパートナーシップです。加盟大学は、慶應義塾大学、九州大学、上智大学、東北大学、立命館大学、サウサンプトン大学、ダラム大学、ニューカッスル大学、リーズ大学、リバプール大学。(2025年4月現在) (<https://www.britishcouncil.jp/programmes/higher-education/university-industry-partnership/renkei/about>)



RENKEIヘルス・ワークショップ参加者

## 慶應義塾大学日吉子ども食堂開催

2024年6月22日、10月5日、12月21日に慶應義塾大学日吉子ども食堂を開催しました。本企画は日吉キャンパスにおける様々な社会貢献に関わるプロジェクトの中の、地域との交流実現に向けた取り組みの一つとして、2022年12月より実施されているものです。公認学生団体である「スローフードクラブ」に所属する学生が中心となって、慶應義塾におけるSDGs達成や地域と大学の関わりを深めるための取り組みの一つとして具現化し、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」の協力の下、日吉キャンパス教職員と共に企画・運営しています。

7回目となる2024年12月21日の子ども食堂には、日吉キャンパス周辺にある小学校4校から約30名の小学生が参加しました。「慶應の学生と交流しよう!」と題して、参加者と大学生と一緒にクイズや工作、食事を楽しみながら、交流を深めました。



第7回日吉子ども食堂の様子

## ワークショップ「最先端の医療機器でリアルな医療体験を！」開催

2024年8月17日、麻布台ヒルズの予防医療センターで、中学生を対象としたワークショップ「最先端の医療機器でリアルな医療体験を！」の第1回が開催されました。このワークショップは、麻布台ヒルズのテナント企業や店舗などが子どもたちに学びの場を提供するサマープログラム「ヒルズ・ワークショップ フォー・キッズ2024」の一環として、慶應義塾が本物の医療機器に触れる体験学習の機会を提供したものです。参加した中学生たちは3グループに分かれ、予防医療センターの医師・看護師・技師と、医学部・看護医療学部・薬学部生の救命救急措置法普及活動サークル「KAPPA(Keio ACLS Popularizing and Promoting Association)」所属学生の指導で、内視鏡で胃の中を調べるトレーニング、腹部超音波検査装置による内臓の様子を観察、シミュレーターとAEDを使った一次救命処置の3つを、ローテーションしながら学んでいきました。

予防医療センターでは、さらにプログラムを改良しながらこの取り組みを続け、子どもたちに最新の医療に触れる機会を提供していきます。



AEDを使った一次救命処置の実践

## 「多分野の協働で実現する身体活動促進シンポジウム2025」開催

2025年3月4日、KGRI慶應スポーツSDGsセンター、東京大学大学院医学系研究科保健社会行動学分野および日本運動疫学会共催による「多分野の協働で実現する身体活動促進シンポジウム2025～スポーツ推進計画と健康増進計画を同時に推進・達成するための自治体戦略～」を東京大学本郷キャンパスにて開催しました。住民の身体活動促進やスポーツ実施率向上を多分野・部署間の協働で実現し、スポーツ推進計画や健康増進計画等を効果的に推進するための実践的な知識や課題を共有することを目的とし、自治体におけるGood Practiceや課題を共有しました。

同一自治体内の複数部署（健康福祉、地域振興、スポーツ、etc.）からのご参加、大歓迎です！

スポーツ推進計画と健康増進計画を同時に推進・達成するための自治体戦略

### 多分野の協働で実現する 身体活動促進 シンポジウム2025

（運動疫学セミナー実施率向け特別版）

**3/4 火**

**時間** 15:00～17:00

**会場** 東京大学 本郷キャンパス 医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂 + オンライン ※要参加登録

**対象** 身体活動促進に関わる自治体職員及び研究者・専門職・学生など

**目的・ゴール**

住民の身体活動促進やスポーツ実施率向上を多分野・部署間の協働で実現し、健康増進計画やスポーツ推進計画等を効果的に推進するための実践的な知識や課題を共有すること

**運営者代表**



**小泉 祐子**

慶應義塾大学スポーツ国際戦略センター 副センター長 慶應義塾大学 1-1000センター 長



**津田 真光**

東京大学大学院医学系研究科 保健社会行動学分野 疫学学術研究センター 准教授

**連絡先**

科棟：慶應義塾大学KGRI 慶應スポーツSDGsセンター  
東京大学大学院医学系研究科 保健社会行動学分野 日本運動疫学会  
後援：（公財）野山スポーツ財団、スポーツ庁  
（公財）慶應・野山スポーツ文化事業団  
東京大学スポーツ・健康科学連携機構（UTSSO）

**プログラム**

15:00-15:05 開会  
15:05-15:35 主催者メッセージ  
15:35-16:35 自治体による成功事例共有  
16:35-16:55 質疑応答・ディスカッション  
16:55-17:00 閉会

**参加申込（無料）**

QRコードからお申し込みください  
申込期間：2024/2/15（水）

KEIO SPORTS SDGs UTokyo 日本運動疫学会

お問い合わせ先：運営事務局 連絡先 keiosportsdgs@gmail.com

シンポジウムポスター

— 3 —

## 塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議の提言を踏まえて提出された企画は、学内の審査委員会で審議され、採択されたものがプロジェクトとして稼働します。

### 地方学生プロジェクト

SDGsゴール10「人や国の不平等をなくそう」の実現のため、「地方」に焦点を当てたプロジェクトです。地方出身生の割合を増やし、学生の多様化を推進することで学内の交流を活性化させ、社会課題解決につながるアイデアを生み出すことを目指し、「2030年までに地方出身生の割合を40%までに復活させる」ことを掲げ、入学センターと連携し、入学時や大学生活の不安を解消するソフト面の支援強化を行っています。

2024年4月2日～4月5日と5月7日～5月10日、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」と湘南藤沢キャンパス(SFC)の食堂「タブリエ」において、地方出身生やひとり暮らしの新生入生、留学生等を対象に、それぞれの地元の食文化についての交流を深めながら、健康的な自炊の重要性やコツを学ぶ「よる食堂」イベントを開催しました。イベントでは栄養に関するレクチャーや交流企画などに加えて夕食も無料で提供され、多くの学生が参加し、盛況を収めました。また、地方出身生やひとり暮らしの学生がより充実した大学生活を送れるように支援するため、2024年5月、デジタルパンフレット「Unlimited Vol.2」を作成しました。健康管理や精神的なサポート、交友関係の構築などのソフト面での支援に重点を置いており、奨学金や住居支援、健康管理、履修登録のアドバイスなどの情報をまとめています。



よる食堂イベントの様子



Unlimited Vol.2

## 日本赤十字社とボランティア協定締結

2025年3月21日、慶應義塾と日本赤十字社は、人道的課題に取り組む学生ボランティアの育成および活動等を行うことを目的とした連携協定を締結しました。2025年度には、ボランティア活動を希望する学生の支援を行うための環境・体制整備や日本赤十字社との連携を行うべく予定で

### 活動支援の例:

- ボランティアに関する相談
- 慶應義塾が関わるボランティア活動の広報
- 日本赤十字社をはじめとした外部機関が実施するボランティア活動に関する情報提供
- 研修会・セミナーの実施

など